

主要医療機関の協議結果

R2.6.2 資料

	済生会兵庫病院		丹波医療センター		三田市民病院	
医療計画の位置づけ	地域周産期母子医療センター		協力病院		一次医療機関 (神戸・三田圏域の協力病院)	
市立バースセンター※1 設置に対する見解	×	二次医療機関としての受け入れはいつでも可能だが、産婦人科医師が常時管理、コントロールできる状態でない限り難しい。 物理的な距離（遠い）は安全性の面からクリアできない。	×	産婦人科医師が常時管理、コントロールできる状態でない限り難しい。	×	分娩の時だけ診ていくことに責任がもてない
嘱託医療機関の受託について	×	受託できない	×	受託できない	×	受託できない
助産師のオープンシステム※2の受け入れについて	△	院内助産師外来の計画はあるが、開設は未定。院内で具体的な話し合いができていないため、オープンシステム受け入れは難しい。 市の助産師による分娩の立会希望があれば、院内の助産師と相談し具体的な関わりについての話し合いは可能。	△	助産師外来あり。保健指導の範囲において実施しており、医師が把握しない貴重な情報収集ができる。 情報共有、連携のあり方を具体的にしていく必要がある。	×	産科医も直前の分娩だけとなると責任をもって引き受けができない。
My 助産師制度、My 助産師ケアセンター（仮）※3 設置についての見解（産前産後ケア含む）	○	助産師の寄り添い支援、産後ケアは望む 院内の助産師と連携方法を検討してほしい	○	助産師の寄り添い支援、産後ケアは望む 同じ助産師が継続して関わることはメリットになる 丹波篠山市内での分娩調整が必要		
My 助産師ケアセンターで行う助産師による産後 2 週間健診について	△	産後 2 週間健診は、助産師主導で実施している。 産後ケアは希望する。	○	健診なのか、保健指導の位置づけなのかをはっきりさせる必要がある。 医師の判断は必要。 助産師の保健指導、産後 2 週間健診を希望する。		
医療と連携する際の課題	産科医療のリスクや責任の問題		情報の共有・連携のあり方			

<用語の定義>

- ※1 バースセンター 助産師が主体となって運営する施設。定期的な妊婦健診（節目）はかかりつけ医が行う。助産師が分娩を行う。
- ※2 オープンシステム 通常の妊婦健診は、My 助産師ケアセンター（仮）等で受診し、分娩は分娩医療機関で My 助産師が行う。
- ※3 My 助産師ケアセンター（仮） 助産師が主体となって運営する施設。一人一人の妊婦に My 助産師が担当。産前産後ケアの拠点となり、妊婦一人ひとりの心と身体に寄り添ったケアを行う。分娩は行わない。助産所※4として開設すれば、妊婦健診、産後 2 週間健診が可能となる。
- ※4 助産所 助産師が管理する 9 床以下の施設のこと。妊婦健診や新生児の保健指導のほか、正常分娩であれば助産師が医師の指示を必要とせずに分娩介助ができるのが特徴だが、分娩を取り扱う助産所には嘱託医師および嘱託医療機関が定められている。しかし、分娩を伴わない産後ケアなどの様々なニーズにより一層対応できるようにするため、制度が改正され、分娩を取り扱わない助産所として、分娩室を設置しない助産所開業も可能になっている。